

市民がつくる
市民が学ぶ
市民が拓く
生涯学習情報誌

Stage

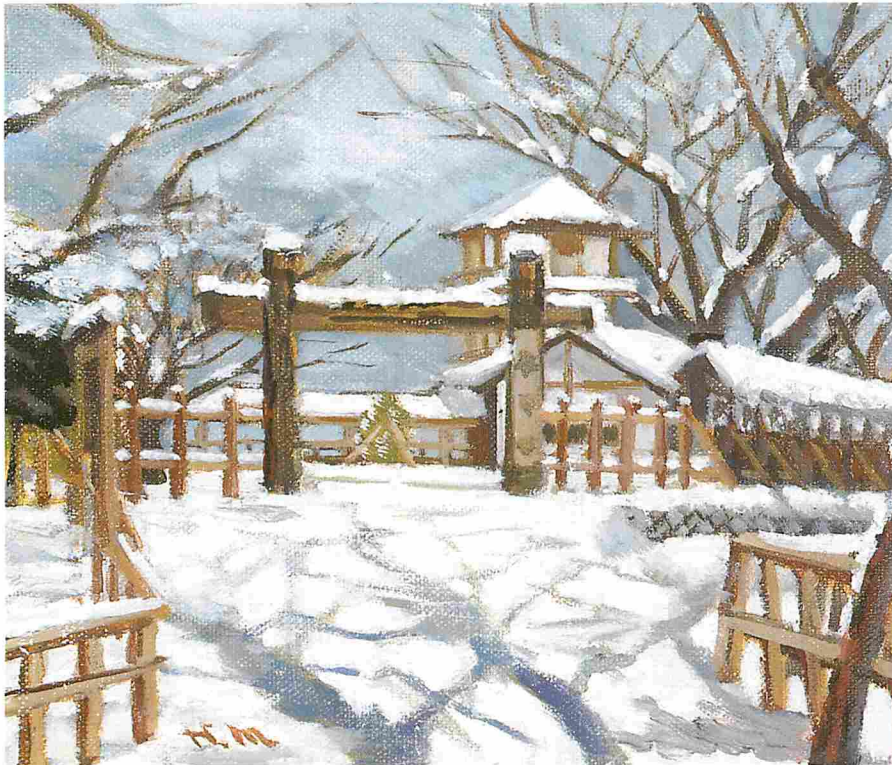
月刊ステージ・アップ

up

'99
新春

号【1、2月合併号】

かわさき市民アカデミー 2月に新会員、聴講生を募集



いまを話す

川崎・こみを考える市民連代表、飯田和子さん
「プラスチックの海」の編著者、佐尾和子さん
環境破壊伴う豊かさの20世紀から
自然と共存する豊かな21世紀へ

四季の題材求め有意義な体験

新・表紙絵制作者

村相 広義 むらさき

「来年の表紙絵をかいてみませんか」。ステージ・アップの方から平成十年の春にその声を掛けられました。そのとき「私の未熟な絵が、読者の方々に満足していただけるか」と強い不安にかられました。読者の大半が生涯学習をされている方で「美術にも造詣が深い」と緊張したわけです。

いまも、不安が残っていますが「いい機会を与えられた」と思い、表紙絵を一年間担当させていただきます。みなさまから率直なご意見、ご感想をいただき、任務を全うしたいと思っております。

さて、表紙絵の題材は川崎市内か、川崎に関係のあるものとしてとしました。私は春夏秋冬の絵を描く準備のため、川崎市内の名所や市の施設を訪れ、大変有意義な体験をすることができました。

とくに、数カ所の公園を見て感じたことは、十分な自然が残っている公園があった反面、原生林を開発し人工池や人工公園が主体の公園もあり、むなしさを感じまし

た。公園法に基づき、運動場や遊具施設にかなりのスペースを取り、数百年の歴史の自然林が失われた所も少なくありません。さらに造園技術を巧みに使ったビニール底の人工池や人工滝、幅広の管理用舗装道路など、平成の施設思想の在り方を考えさせられました。

近年、文化・芸術を愛好する生涯学習者が増えています。絵を描き、それを生きがいにする方や作者を目指す方もいます。そうした方から「早く上達したい」「プロ会派に入りたい」との声を耳にします。上達度には個人差があり、昔から「何枚キャンバスを塗りつぶすかで上達度が決まる」といわれてきました。ほとんどのプロ会派には格付けがあり「公募展入選十回で会友。その後、十回入選で正会員」といった感じです。

生涯学習の基本は「好きなことを仲間と楽しく学ぶ」ことです。「焦らず、悩まず、高望みせず」が大切です。表紙絵もその姿勢で制作しますので、ご容赦ください。

Stage Up 新春 号もくじ/1999年

■ほんね対談 いまを話す 4

川崎・ごみを考える市民連絡会代表

飯田 和子 さん

「プラスチックの海」の編著者

佐尾 和子 さん

環境破壊伴う豊かさの20世紀から
自然と共存する豊かな21世紀へ

■はりきつてます グループ紹介 10

障害者・高齢者へ手助けする

21会・宮前区男性まごころの会

●かわさき市民アカデミー夜間講座受講生募集 11

□小誌「いまを話す」のインタビュアー募集

●学習・文化情報 12

◆ミニニュース 15

□編集後記 裏表紙

■みやまえ口ビーコンサート5周年記念

◇表紙絵……日本民家園周辺の冬——村相広義さん

(小誌は再生紙を使用しています)

かわさき市民アカデミー 4～7月講座の会員・聴講生募集

No.	コース	講座名	講師	曜	開始時間
1	99人間学	人間のライフスタイル	内山節さん(哲学者)	月	9:20
2	98人間学	自然としての人間	森本和雄・駿河台大教授	月	11:00
3	99政治国際	現代アメリカの政治と外交	五十嵐武士・東京大教授	月	11:00
4	98政治国際	20世紀の政治は何であったか	馬場康雄・東京大教授	月	9:20
5	98文学	戦後の文学史	高橋敏夫・早稲田大助教授	火	10:30
6	98ことば	ドラマ入門	山本亘さん(俳優)	火	10:30
7	川崎学V	川崎の自然観察-春・夏編-	斎藤博・国立公園指導員	火	10:00
8	99歴史	都市の近代と歴史の方法	喜安朗・日本女子大教授	火	10:30
9	98美術	パブロ・ピカソの芸術	末永照和・実践女子大教授	水	10:30
10	99ことば	新聞の読み方テレビの見方	原寿雄・元共同通信編集主幹	水	10:30
11	川崎学I	川崎史の課題に迫る・その1	村上直・法政大名誉教授他	水	13:00
12	99音楽	モーツァルト大楽	海老澤敏・国立音大学園長	木	10:30
13	99科学	生物の形と動き	東昭・東京大名誉教授	木	10:30
14	99経済環境	バブル崩壊後の日本の経済	神野直彦・東京大教授他	金	9:20
15	98経済環境	持続可能な社会を目指して	下村恭民・埼玉大教授他	金	11:00
16	99生活系	「生活」とは何か	一番ヶ瀬康子・長崎純心大教授他	金	9:20
17	98高齢福祉	高齢者の福祉と介護	一番ヶ瀬康子・長崎純心大教授他	金	11:00
18	98居住福祉	居住環境と福祉を考える	小川信子・日本女子大教授他	金	11:00
19	99みどり学	暮らしとみどりのデザイン	望月南穂まちづくりデザイナー他	金	10:30
20	98みどり学	造園学入門	野沢清・元東京農大助教授他	金	10:30
21	川崎学II	川崎を「見る・知る・考える」	加藤有次・国学院大教授他	土	10:00
22	川崎学III	まちづくり実践塾	佐藤紘毅さん(川崎地方自治研)他	土	13:00

◆講座名は変更することがあります

〔会場〕川崎市生涯学習プラザ(武蔵小杉駅下車)。No.7は野外、No.9・19は新百合21ビル〔費用〕会員入会金2万円(川崎在住・在勤)、講座5千円、演習5千円(いずれも14回分)、No.7は1万円。聴講生は一講座7500円(No.7は1万5千円)〔申し込み方法〕会員は募集要項の添付はがきを郵送。聴講生は電話か官製はがきで〔応募期間〕会員は2月1日(月)～13日(土)、聴講生は2月15日(月)～27日(土)■募集要項は1月26日(火)から当事業団、各市民館・図書館・区役所などで配布■申し込み・問い合わせは〒211-0064 今井南町514の1、かわさき市民アカデミー事務局 ☎(733)6626 <11ページに夜間講座の記事>

いまを話す

ゲスト

川崎・ごみを考える市民連代表

飯田 和子 さん

「プラスチックの海」の編著者

佐尾 和子 さん

Vol.71



▲飯田和子さん

環境破壊 伴う豊かさの20世紀から 自然と共存する豊かな21世紀へ

一九九九年は二一世紀へバトンタッチする年である。市民が希望をもてる年になることを祈念して、「川崎・ごみを考える市民連絡会」代表の飯田和子さんと「プラスチックの海」の編著者の佐尾和子さんが対談。いま、人類の存続さえ危うくしている環境ホルモンが大きな社会問題となっている。それは、今世紀の成果といわれてきた「効率の追求」「大量生産大量消費」「お金の経済」の否定につながる。市民が「二〇世紀の経済」を総括して「与えられた豊かな生活」と決別し「自分たち自ら作り出す豊かな生活」を模索したとき、「二一世紀の光明」を見いだすことだろう。そのキーワードは「自然は循環しており、必ず人間社会に戻る」である。

——四年前「いまを話す」で飯田和子さんに、ごみ問題についてのお話をお聴きし、さまざまな反響がありました。あのころより地球環境はひどくなっていますか、市民、法人の環境問題への意識は高まっていますか。一九九九年が地球環境へ「光明」が見いだせる年になることを願い、この対談で再度、飯田さんにご協力をお願いしました。また、佐尾和子さんは三年前「プラスチックの海」(海洋工学研究所出版部刊)を共著で出され、海の生き物たちが人間が作

り出した物質に苦しめられている姿を告発し注目されています。身近なごみ問題に取り組む飯田さん、海の生物の悲惨な状況を通し人間の在り方を問う佐尾さん、よろしくお願いします(編集チーム)。

飯田さん 一九九七、八年にかけて、日本中でダイオキシシンと環境ホルモン(内分泌かく乱化学物質)について不安を感じ、非常に高い関心を示している状態ですが。佐尾さん 私が「プラスチックの海」をまとめたのが九五年です。プラスチックの製品やその破片、袋が海に、自然環境の中に、放出されている事実を知り「将来どんなことになるのか」と思いました。九七年には、アメリカで「奪われし未来」(日本での翻訳名)が出版されました。

飯田さん その後、日本でもベストセラーになりましたね。

佐尾さん それを読んで、プラスチックの添加剤がいちばん怖いと。この中には、内分泌かく乱化学物質といわれるものもあって、私はずっと疑問に思っていた「プラスチックが生物、人体に悪影響を与えているのでは？」との不安と結びつきました。これを糸口に、



▲佐尾和子さん

具体的にプラスチック問題が究明され、人間は「どうすべきか」がみえてくると思いました。

飯田さん 環境ホルモンについては「どの化学物質にどのような毒性があり、どんな被害が起こるか」も分かっています。けれど、わかった時には、きっと被害が広がっていますよ。国や行政も「環境ホルモンは大きな問題」といいながら対策が立てられない。私たちは「危うきは作らず、使わず」を願うのですが、社会のシステムとして、危ういものが作られる現代の工業政策や大量生産の流れがあります。「どうやって、このシ

ステムを変えていけるか」が問題です。業界は、必死で生き残りをかけて安全性をPRしています。いま大事なのは、市民が事実を学習し、危機意識を持つことです。

佐尾さん 同感です。今まで問題が起こると、実験を重ね数値的な結果が出るまでは何も動きだしませんでした。それではもう間に合いません。これまでのやり方を続けてきて「新しいのちが生み出せない危機的状況」になったのです。こうなる過程のどこかで「これは危ない」という警鐘があったはずですが「証明されていない」と、切り捨てられてきたのです。

飯田さん 構図はエイズ事件と同じですね。「証明」を遅らせる“先生”もいて。

佐尾さん ですから、これからは「予防原則」というか、生物に影響が開始めたら「自然は循環している。必ず人間に返ってくる」と認識し、この予防原則を政治や、企業などが尊重し、真剣に対策を講じる…。同時に、自然界についての人間の能力には限界があることを再認識しないと。

飯田さん そのことを実現させるには、私たち市民が事実を知り力をつける必要がありますね。

佐尾さん その事実をどう考えるかという思想を私たち自身が身につけますと、具体的に社会を動かす力になると思います。

飯田さん プラスチックにこだわり、本にするまでのいきさつは。

佐尾さん 日常生活の中で「プラスチックというのは厄介だ。使い捨ては嫌だ」と感じていました。「プラスチックの海」を出す4年前、北海道大学で海鳥の研究をされている小城春雄先生にお会いし、海鳥が飲み込んだプラスチックのサンプルを見せていただきました。サンプルがカラフルなモ

佐尾 和子 さん

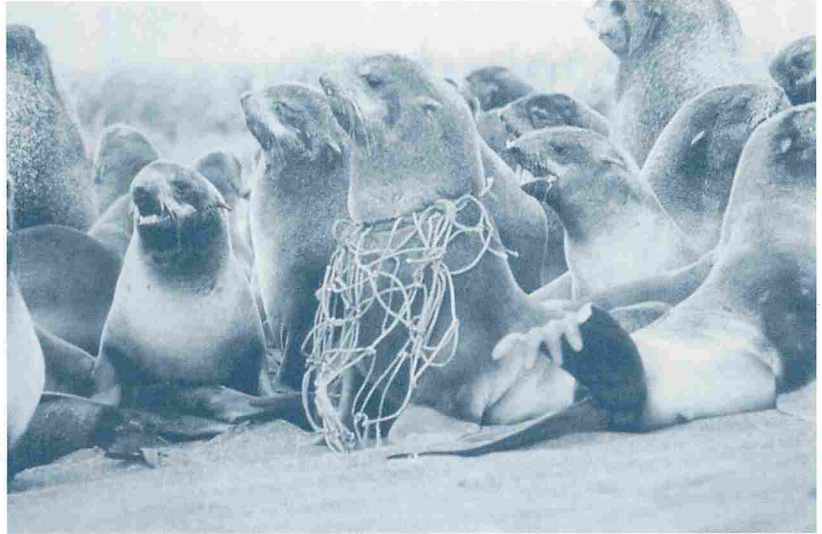
さお・かずこ＝1944年東京生まれ。日本女子大英文学科卒。その後、女性・教育・ブナ林保護の市民運動にかかわり89年、(株)海洋工学研究所設立。91年、米国の海洋環境研究・保護についての調査で渡米。現在、同研究所出版部長で、環境問題の書籍の編集・出版を。森～海～大気へと巡る生命の循環に基づいた価値観の再生を目指す。最近「重油汚染・明日のために」『ナホトカ』は日本を変えられるか(海洋工学研究所出版部)の共著を上梓。麻生区王禅寺在住。

飯田 和子 さん

いいだ・かずこ＝東京生まれ。慶応義塾大学卒業。67年より川崎市民。2年間ドイツで暮らす。その後、南百合丘小PTA会長、民生委員を歴任。10年前からごみ問題に取り組み、現在「川崎・ごみを考える市民連絡会」代表、市廃棄物対策審議会委員。市地域環境リーダー、環境庁環境カウンセラーに登録し、環境教育にも携わっている。麻生区上麻生在住。

プラスチックの環境ホルモン

「危うきは作らせず」の原則を 生物被害 必ず人間にも



漁網片が絡まった若い雄オットセイ

〔「プラスチックの海」より馬場徳寿撮影〕

ノでしたので、何なのか見当がつかせませんでした。小城先生が「ハシポソミズナギドリを解剖して、その消化管から出てきたんです」と。私たちが日常生活を営む中で、野生動物に被害を与えている具体例を見せつけられた思いでした。

飯田さん 海鳥は、人間の目に

つくところにはないはずですが。

佐尾さん 魚を捕る時の漁網を

仕掛けておきますと、海鳥とかオットセイなどの海の動物がひっかかるそうです。海鳥は人間が仕掛けた網で事故死する前にプラスチックを飲み込む二重の被害を被っているのです。こういうことがき

っかけで、野生動物と自分たちの生活とのつながりをもっと知りたいたいと思います。

飯田さん 人間の不始末が原因で、野生動物の事故が起きている。

佐尾さん その後、アメリカで資料を調べていましたら「海の廃棄物に関する市民へのガイドブック」に出会いました。どういう廃棄物がどこから来て、どんな被害を与えているか。市民は何をした方がいいか。これを規制する仕組みは…。わかりやすく解説してあるんです。これを読んで「日本でも海の廃棄物と生き物の被害について広く知ってもらいたい」と思い、本にすることにしました。

飯田さん 出版当時の反響は。

佐尾さん 「知らなかった」と結構反響がありました。が、広く伝わるまでには。ただ、行政やプラスチック業界を取材した際「自分たちの責任ではありません。あなたたちが便利な生活を望んでいるからです」と市民に責任を転嫁する感じでした。私が強調したいのは「プラスチックとは、どういうモノか」を根本的に考える必要があるということ。長い年月を経て自然に返らない有害なモ

ノを『どこまで減らせるか』をクリアした上でのリサイクルでないという意味がない」と。出版したとき「便利なきことをやめる、少なくともは無理」という反応もありましたが、少しずつ意識が変わってきていますね。

飯田さん 私が、東京都のある会議に出席してコーヒーブレードのとき、個包装のお砂糖とミルクが一人ずつ付いてきました。すると、外国の方から「各人が砂糖はスプーンで必要なだけ取り、ミルクもミルクピッチャーを回せばいい」との意見が出ました。私たちは「小さなもの」と見過ごしがちですが、欧州では日常生活のなかで「使い捨てはダメ」という意識が身につけていると強く感じ、実生活の中で実行する大切さを知らされました。そして、日本では、まだ使い捨ての便利さと生活の豊かさを取り違えているような気がしました。今後は「自然界との共生の中の豊かさが本当の豊かさ」と感じるような時代になればいいと思います。それは、自然をどう残していくか、自然をどう取り戻していくかという視点からの豊かさです。

プラもごみも製造者責任で減量 焼却も埋め立ても怖い？

佐尾さん そうですね。本当に。飯田さん 現実問題として、ごみの埋め立て場はこれ以上確保できない状況です。また、これまでは公衆衛生という観点からごみを焼却してきましたが、焼却場からダイオキシンが発生し、市民の健康を守るためにつくられた焼却場が公害発生源になっているのです。本気になってごみを出さない工夫をしないと。

佐尾さん プラスチックは生態系に戻りませんし、その添加剤がすごく怖い。添加剤も自然に返らず、内分泌かく乱化学物質となるものが多いのです。清掃工場で焼

却しても、添加剤に使う重金属類は処理されないで、埋め立てられます。これはすごい問題です。焼却し埋め立てても内分泌かく乱化学物質が残り、長い年月のうちに必ず地表に出てくるんです。

飯田さん 現代社会が、いかにもろいか。人類の存続にかかわっているのですから。

佐尾さん プラスチックは、経済成長に大きな役割を果たしました。使い捨てをさせることで経済は成長しました。けれど、その後始末には「マイナスになるからお金は使わない」との態度でこまできたのです。企業は大量生産することだけを考え経済を動かしてきました。そのツケがいま、巡ってきた感じですよ。

飯田さん ヨーロッパ、特にドイツとかスウェーデンでは「製造者責任」という原則があります。その仕組みを日本でも作り、規制することは可能です。

佐尾さん 生物が生まれ、人間が生まれたとき、生物も人間も支え合って生きてきたという、いのちの原点に立ち返って、新しいシステムを作らないと。自然と人間が共存してきた過程をみますと、動物たちは自分が必要とする分以上は捕りません。山で暮らす人たちも自分たちに必要なだけの山菜を取ります。それは次の年、次の世代のことを考えてのことです。



ところが、外から来る人達は根こそぎ取って行きます。都会の人には「自然の循環」の知識がありませんから「環境の輪」がとぎれるまで取ってしまい、環境を浸蝕するのです。「身の回りで生きる」という「いのちの原点」に立ち返って経済を考え直すことを始める時機にきていると思います。

飯田さん 自然の循環ということで言いますと「プラスチックは

自然に戻らない」ということを再確認する必要があります。そういう意味では、プラスチックについて、都会の人がもっと危険を感じませんか。総量規制も必要なのではないですね。ところで、マスコミ論調は「不況。景気回復」一色ですが、バブルの絶頂期に比べ購買力が落ちているのは当たり前です。皆さん買ったのですから。景気の低迷で、市民が「必要なものだけを買う」スマートな暮らし方を実践しつつあります。世論調査の結果でも「家計を一〇%切り詰められる」です。「人間の原点に戻っての豊かさ」についての議論が少ない気がします。

佐尾さん それは、すべて「お金の経済」のためなんですね。これからは「自分で作り出す生活」に変わると思います。私は秋田の白神山地の麓で、年間数十日暮らすのですが、物物交換が多く、お金がほとんどかかりません。地元の人、自分の所で採れた野菜を他の人に分けて、違う野菜や山菜をもらうのです。所得は都会より低いのですが、とても豊かな感じで無駄もないんです。過疎な所でお店が余分なもの売っていません



んから買わないで済むのです。

飯田さん 自分たちの生活に必要なものを必要なだけ得るといふ理想的な生活ですね。

佐尾さん お金がないと暮らせない都会と違い、恵みを感じます。不況を機に田舎で暮らす人が増えると思いますが、この傾向が続けば人口もやや平均化されます。そ



ロープが絡まって打ち上げられたオサガメ(「プラスチックの海」より 亀崎直樹撮影)

『人は自然の中で生かされてる』 学ぼう 〃いのちの原点〃

うなると、経済の仕組みそのものも少し変わってくるでしょう。問題は「地方で仕事の間があるか」です。自分たちで何かを作りながら、みんなでどういう仕事をするかを考えていくゼロからの出発ですが「お金の経済からはみ出した仕事」を作り出すことは不可能ではないと思います。

飯田さん 若者の中に、有機農法を取り入れ頑張る人たちが増えていきます。その人たちは、農業が単なる仕事ではなく、自然とのかわりをいろいろ試み、自分の目指す農業に近づけようとしています。そこには希望があります。

佐尾さん 「少し変わってきているかな」という感じはします。変革が起こるときは、まず尖鋭的部分が変わって、あるとき、大部分が大きく変わるんです。みんなが平均して変革することはないので、先を予見する前衛的なものは大事です。それと、大事なのは子

供のころからの環境教育ですね。

飯田さん ドイツやスウェーデンの環境教育は、幼児期から始まります。保育園では、子供が残した昼食を園内で飼っているニワトリの餌にし、それを保育園の食材にします。また、ニワトリが食べないものは、コンポスターに入れて菜園の堆肥にします。そこでできた野菜もお昼の食材になります。幼いときから「人間が自然の中に生かされている」とこと、モノを大事にすることが、しっかり教えられると思います。小学校では環境教育はカリキュラムに入れられ、算数や図工の時間でも、環境に関連した問題や題材が出されます。自然の中で一日暮らすこともよくします。

佐尾さん 徹底していますね。

飯田さん 「ごみ」は環境教育で絶好の教材です。リサイクルは当然ですが、それ以前に出さない工夫、たとえば、アルミ缶でなく

リターナブル瓶入りを買うことが優先されます。

佐尾さん アメリカで暮らしていたときの実感として、小さい時から自然の中に出てキャンプ生活をよく体験させます。大きくなって、リュックを背負って自然の中で生活することが特別なことではないんです。戦後、私たちはアメリカのまねをしてみました。それはアメリカのある一部分なんです。実際のアメリカ人の生活は質素です。また、アメリカでは問題が起こると「これまでと異なる方向」派と「従来の方向を守る」派というように、別の力が働かせめぐぎ合います。日本は、チェックとか抑止という逆の力があまり働かず、みんなが一つの方向にいく傾向が強いと思います。何が真実かを自分の目で確かめ見分ける力を養うことがなかったのです。

飯田さん 私たちの市民運動は、少しずつ意識を変えていく努力をしてきました。しかし、市民への啓発に、ヨーロッパではお金を掛けています。出版物を出すときも、キチッと調査をしてその結果を示し、専門家の分析も含め、分かりやすく解説していますね。

佐尾さん しかも、そうした出版物はすべて無料です。

飯田さん また、日本の市民運動と行政がかかりについてですが、私は行政が得意とするところと、市民自身が情報を発信していくという両方が大事だと思っています。市民の意識・力が行政を変えようと思っています。事実、民主主義の成熟している国では、環境も福祉も進んでいます。アメリカでは、市民団体に企業がたくさん寄付して支えています。日本と大きく違う点ですね。民間が活発ということ、欧米の民主主義というのはすごく底力があります。

佐尾さん 私もそう思いますね。飯田さん 民主主義の厚さが、環境保護団体の力を大きくしているんですね。

佐尾さん そうなんです。環境保護団体が専属の研究者を置いています。大学なども連携をとって活動しているんです。経営的に

は寄付で支えられています。最初にガイドブックの話をしましたが、

あれはCMC（アメリカ海洋自然保護センター）というところから出ているんです。海洋保護に関して、いちばん大きな団体です。プラスチックに関しては、日本では、例えば、プラスチック工業連盟のようところが、環境保護団体に協力しているのです。反応は厳しいのですが、協力せざるを得ないのです。もし協力しなかったら、逆にその業界の評判が落ちるからです。環境保護団体のロビー活動（陳情）がすごいので、政治家を動かす力も持っています。

飯田さん 環境教育の授業にも民間団体が直接入っていますし。佐尾さん すべてを学校の先生が教える必要はないのです。地域で活動している方々の知恵を借りればいいのです。

飯田さん 日本の学校は、もっと柔軟性をもってほしい……。

燃やしません 生ごみ・落ち葉は資源です 飯田さん 人と自然を救うプラスチック製品の見直し 佐尾さん

どなたにもできる環境行動

佐尾さん 白神山地はブナの原生林で有名です。地元の小学校で子供たちに「ブナとは、どういうものか」という環境教育を地域で自然保護活動をしている人たちによって行われたことがあるそうです。



この意識も大きく変わるはずですが。飯田さん ステージ・アップから「『あなたにもできる環境にやさしい行為』の提言を」との要望がありました。私は「使い捨て容器と使い捨てはやめる」「生ごみ、落ち葉は資源です。燃やさない」を提言します。

佐尾さん 飯田さんの提言との重複は避けまず。「プラスチック製品の洗い出し・見直しが自然とあなたを救う」「自然に返る素材の製品を買おう 作らせよう」です。網にからまったオットセイの写真（六ページ）は、人が使い捨てた網です。私たちの生活で使い捨てたものが海に漂い、動物に絡まるのです。プラスチックは国境を越えてどこへでもいくのです。

飯田さん 「川崎・ごみを考える市民連絡会」で、ごみの発生調査をしました。買い物時から工夫し、排出時に資源にまわす努力をすると「九割がごみにならない」との結果です。資源化のシステムを早く作ることが重要です。

題字は高橋清・川崎市長

構成／富樫 恭子

文責／田中 園

カメラ／井上 徳子

はりきってます グループ紹介



できる活動やろう
65歳はぴっかぴか

仲間と楽しむ

学芸

活動する

HAPPY HAWAII

晩秋の月曜の朝、メンバーの川安彦さん(65)は、宮崎駅近くの前田涼子さん宅を訪れた。

「おはよう。迎えにきましたよ」と声をかける。小学一年の龍希くんと母親涼子さんが笑顔のをぞかせる。龍希くんが通う中原区の市立ろう学校まで送るのが、この日の角川さんの仕事。健康が優れない母親の代役である。

元気に走り出す龍希くんの後を追う角川さん。写真右。駅まで走ったり、止まったり。葉っぱを拾う道草も。それを見守り、ころ合いをみて「もういいかな。行こうか」と手をつなぎ歩き出す二人。涼子さんは「週二回、交替で送ってもらっています。みなさんのこまやかな気配りと連携のよさに頭が下がります」と感謝する。

初冬の火曜の午後、宮前区の菅生分館でのリハビリ教室。そこでけん玉を披露するのは、同会員の秋丸鎮雄さん(74)。リハビリ教室の主催者から「けん玉の実演を」と頼まれ、けん玉名人の秋丸さんが「ゲスト出演」。

秋丸さんが「けん玉に合う歌が一曲だけありますが……」に、女性「「もしもしかめよ」でしょ」

と懐かしそう。「では一緒に歌ってください」。全員の歌に合わせて、球が柄の部分の皿と小皿へ交互に入っては、すばい移動を繰り返す。写真左。見とれる参加者たち。球を外す秋丸名人に「あーあ」と惜しむ声があがる。

「今日はちよっと調子が……。千回続いたこともあるのですが。ギネスブックには四万回という記録もあるそうですよ」と話し参加者もなごませる。

会のスタンスは「自分ができるときに、できる範囲を責任を持つとする」。急な仕事の依頼にも応じられるチームワーク。仕事を担当する予定の会員の体調不良などの事態に備えたバックアップ体制も万全。依頼者の信頼がウナギのぼりなのもうなずける。

同会の誕生は二年前の四月。宮前区社会福祉協議会主催の福祉セミナーの受講者で発足した。

森川代表は「少しでも役にたてればうれしい。今後は助け合いの輪を各区に広げたい」と意欲的。

連絡は ☎ FAX (977) 4968 の同代表。

文／小誌・菅原純子
カメラ／小誌・井上徳子

「21会・宮前区男性まごころの会」 森川一郎代表(66) 〓の三十五人は、高齢者や障害者の人たちを手助けするボランティアグループ。平均年齢は六十五歳。障害児の通学の付き添い、ミニデイサービスの高齢者の送迎、福祉施設での行事の手伝いと幅広い活動。

障害者・高齢者へ手助けする

ボランティア

21会・宮前区男性まごころの会

かわさき市民アカデミー

夜間講座受講生募集

2月15日から

	講座名	講師	曜	時間	受講料(回数)
A	今なぜイタリアブーム I	矢島翠さん(評論家)他	火	18:30	5000円(全7回)
B	現代のデザイン・ファッション学	柏木博・武蔵野美大教授他	木	18:30	3500円(全5回)
C	学級崩壊・キレル若者たちの中で	藤田英典・東京大教授	土	14:00	5000円(全7回)

◆講座名は変更することがあります

■期間は4～7月、時間は開始時間

■会場はA-川崎駅前タワー・リパークビル、B-新百合21ビル(新百合ヶ丘駅)、C-川崎市生涯学習プラザ(武蔵小杉駅)

■申し込みは2月15日(月)～27日(土)までに電話、またははがきで〒211-0064 今井南町514の1 かわさき市民アカデミー事務局まで。問い合わせは ☎(733)6626(日曜休み)

<3ページに4～7月講座の会員・聴講生募集の記事>

あなたの知的好奇心、眠っていませんか？

「いまを話す」のインタビューア-募集

「いまを話す」のインタビューア-を募集します。生活者の視点を持った知的好奇心おう盛な川崎市在住の方の応募をお待ちします。年齢・性別・学歴を問いません。

昨年(1998)の「いまを話す」のインタビューア-の半数が、97年春に応募された方で、生涯学習の時代を「拓く」ことに貢献してくださいました。

今回の募集は、小誌の「全面的情報公開による市民参画」の推進と、生涯学習情報誌という比較的新しいコンセプト(概念)に基づき編集する小誌の「市民がつくる・市民が学ぶ・市民が拓く」のいっそうの具体化のためです。

したがって、今回の募集は「いまを話す」のインタビューア-経験者、未経験者を問わず、インタビューア-を希望されるすべての方に、あらためて応募していただきます。97年春に応募されながら、ご協力いただけなかった方、申しわけありませんでした。

インタビューア-は、まず、小誌コーディネーターやスタッフと事前打ち合わせを数時間します。「読者がゲストに何を求めているか」「何を要点にインタビューするか」などを話し合い「シナリオ」を共同でつくります。ご協力いただく回数は年間1、2回です。

取材当日は、事前打ち合わせで確認した事柄を基に「正確・簡潔・明快」を心掛けたインタビューを約1時間します。

インタビューア-には、交通費プラスαの謝金が出ます。

<応募方法>①写真添付の履歴書②参加グループ名と活動内容③希望ジャンル(具体的に)④応募の動機(400字以内)⑤事前打ち合わせやインタビューできる曜日、時間を記す。

2月10日(水)まで(消印有効)に〒215-0004麻生区万福寺1の2の2 新百合21ビル内 市生涯学習振興事業団編集室「インタビューア-募集係」へ郵送。

学習・文化情報

探していた講座がある

講座・講演

①やさしい先端技術講座②わくわく実験教室◆東芝科学館 ①は1月23日(土)13時半「モバイル・コンピュータ」の現状と将来」と題しインターネット、携帯電話など情報・通信技術について解説②は2月13日(土)10時と13時「のぞいてみよう電気の世界」をテーマに実験と解説。いずれも無料。各250人。申し込みは☎(549)2200の同館。なお、3月まで保育園・幼稚園の園児に特典あり。川崎駅からバス。

「入門手話講習会◆市南部身体障害者福祉会」2月18日～3月25日の毎木曜18時半、全6回。無料。30人(抽選)。申し込みは2月5日(金)までに往復はがきに住所、氏名、年齢、☎を記して21010834川崎区大島1の8の6同館。☎(244)3971。

市外局番のないものは044

学習・文化情報

①心を伝える新絵手紙
②ファッションリフォーム
◆登戸ドレスメーカー学院
①は1月17日(日)13時。筆をしっかりと持って描く絵手紙。写真IIを。受講料千円、教材費500円。先着20人②は2月16日(火)サイズの直し方マ19日(金)ほころびの修繕。同22日(月)小物作りなど。同27日(土)リフレッシュ。いずれも10時。受講料テキスト代込み各回千200円。先着各15人。申し込みは午前中に☎(911)2221の同院。向ヶ丘遊園駅下車。



①油彩画〜家庭用品や野菜を描く②ボディ&マインド・エクササイズ③やさしい俳句④短歌〜実作を通して知る歌の魅力⑤能力を倍増するリラククス法⑥ボタニカルアート(植物画)

⑦中小企業診断士と読む『中小企業白書』⑧Windows 95&WWWインターネット時代のパソコン基礎⑨家訓・遺訓に学ぶ〜乱世を生きぬく教訓⑩パソコン検定試験対策講座④・3級◆玉川大学 ①は1月16日～3月20日の毎土曜14時、全12回②は1月22日～2月12日の毎金曜10時半、全4回③は1月19日～3月23日の毎火曜13時、全10回④は1月20日～3月24日の毎水曜13時半、全10回⑤は1月19日～3月9日の火・木曜19時、全5回⑥は1月23日～3月27日の毎土曜13時半、全10回⑦は2月2～12日の毎火・金曜19時、全4回⑧は2月24日(水)～26日(金)18時半、全3回⑨は2月13日～3月6日の毎土曜14時、全4回⑩は2月8日(月)と9日(火)10時のどちらか。受講料は1万1千円から約5万円。申し込みは☎042(739)8895の同大学継続学習センター。玉

川学園前駅下車。
「音楽鑑賞講座」テオロボを中心に◆玉川学園礼拝堂 1月23日(土)14時、モンテヴェルディ「聖母マリアの涙」などバロック音楽会。受講料一般3千円ほか。定員200人。申し込みは☎042(739)8895の同大学継続学習センター。玉川学園前駅下車。
「海外研修①ロンドン大学提携〜美術館・博物館②ネパールを歩く③花紀行④ユージランド」◆玉川大学継続学習センター ①は1月31日(日)～2月5日(金)②は1月27日(水)～2月7日(日)③は2月22日(月)～3月1日(日)。詳しくは☎042(739)8895の同センター。

「草木染教室◆川崎市民プラザ」2月6日(土)10時。基礎から学ぶ。無料。30人(抽選)。申し込みは1月26日(火)までに往復はがきに住所、氏名、年齢、☎を記して21310014高津区新作1の19の1、同教室係。☎(888)3131。
「指圧健康法無料講座◆幸市民館」2月18日～3月4日の毎木曜13時半。先着30人。申し込みは☎(422)4882の川崎実年ボランティアの会・山口さん。
「読書普及講演会◆中原市民館」2月17日(水)10時。「転機〜私の場合」をテーマに、エッセイスト・岸本葉子さんが話す。無料。先着60人。申し込みは1月26日(火)から☎(722)4932の中原図書館。
「①は左織り②料理③クレイアート◆市青少年創作センター」①は2月7日(日)11日(祝)13日(土)9時半。千円②は2月7～21日の毎日曜と13日(土)9時半。2千円③は2月7～28日の毎日曜13時半。千300円。全日程参加できる人で①小学3～中学生、他は小学～中学生。定員は10～30人(抽選)。申し込みは1月19日(火)までに往復はがきに教室名、氏名、学校名・学年、性別、

学習・文化情報

参加したい催しがある

住所、☎を記し〒214-10034多摩区三田2の3303の1、同館。☎(911)1510。

〔①草木染め②絵手紙◆市青少年創作センター〕①は2月4〜25日の毎木曜9時半。材料費込み6千円。

24日(水)の毎水曜10時。材料費込み3千2百円。30人(抽選)。いずれも対象は成人。申し込みは1月19日(火)までに往復はがきに講座名、住所、氏名、性別、☎を記し〒214-10034多摩区三田2の3303の1、同館。☎(911)1510。

〔写真教室◆サンライフ川崎〕2月6日〜3月6日

催し



〔大ザビエル展①講演会

②講義とレクチャー◆市民ミュージアム〕①は1月30日(土)14時、坂本満・聖徳大

教授が「キリスト教の受容と南蛮美術」を▽2月21日(日)14時、高祖敏明・上智大教授が「フランススコ・ザ

の毎土曜9時半。作品を持ち寄り意見交換。受講料約3千2百円。先着30人。申し込みは☎(344)1777の同所。八丁驛駅下車。

〔講習会①日本サクランウの鉢作り②ガーデニング③盆栽の手入れ④春の庭木の剪定◆市緑化センター〕①は2月10日(水)。5百円②は同17日(水)。千円③は3月10日(水)。無料④同17日(水)。無料。いずれも13時半。定員各30人(抽選)。申し込みは①1月29日(金)②2月5日(金)③④同26日(金)までに往復はがきに講習会名、住所、氏名、☎を記し〒214-10021多摩区宿河原6の4の1、同センター。☎

〔「ピエルの生涯」を②は2月20日(土)13時、木村三郎・日本大教授が「イコノグラフィーから見るザビエル像」を。料金は①無料②千円。定員は①先着各270人②先着40人。申し込みは①当日直接②1月26日(火)から☎(754)45000の同館。

〔映画「キリスト教伝来と日本人◆市民ミュージアム」1月15日(祝)①アジアの瞳②国東物語▽16日(土)③青銅の基督③沈黙▽2月6日(土)①沈黙③青銅の基督▽7日(日)①国東物語②アジアの瞳▽27日(土)①アジアの瞳②国東物語▽28日(日)①青銅の基督③沈黙。上映開始は①13時半②16時③16時半。各回先着270人。一般5百円。☎(754)45000。

〔①取材・文章作り・編集の技術②日常英会話◆菅生分館〕①は1月22日〜3月19日の毎金曜10時。講師は谷口穰・元朝日新聞記者他。無料。20人。保育あり②は1月26日〜3月30日の毎火曜18時半。英語のみの授業で基礎を横浜国大非常勤講師のロバート・ポントブリアントさんが。受講料4千円、教材費別。25人(抽選)。申し込みは①☎(977)4781の同館②1月12日(火)18時半に来館。

〔テスト教室①塩素を含むプラスチック製品の見分け方②手作りみそ◆市消費者行政センター商品テスト

室〕①は1月20〜29日の毎水曜と金曜10時のいずれかを選ぶ。ダイオキシン汚染を防ぐ暮らし方②は2月17日(水)と19日(金)13時半のどちらかを選ぶ。塩分濃度を調べ体によいみそ作り。いずれも無料。各回先着10人。申し込みは①受け付け中②2月1日(月)9時☎(200)2263の同センター。

〔かしこい消費者講座〕医者との上手なかかわり方◆高津市民館〕2月5日(金)14時。講師は辻本好子・ささえあい医療人権センターCOML代表。無料。先着80人。申し込みは1月22日(金)9時☎(200)2262の市消費者行政センター。

〔①太宰治のひとつと作品②フライフィッシング◆岡上分館〕①は1月13日〜3月17日の毎水曜10時。講師は渡部芳期・中央大教授。受講料のみ4千円。30人②は2月20日〜3月20日の毎土曜10時。講師はジャパンフライフィッシングの金澤徹さん他。受講料2千円、教材費千5百円。20人。申し込みは☎(988)0268の同館へ直接。

〔女性学級〜あってよいちがひ、よくない区別◆岡上分館〕1月22日〜3月19日の毎金曜10時。無料。先着20人。保育あり。申し込みは1月8日(金)10時から☎(988)0268の同館。

〔市町村シンポジウム〕ポスト地方分権1分権型自治体を生かす◆高津市民館〕1月21日(水)10時、全体会。パネリストは親泊康晴・那覇市長、柳川喜郎・御嵩町長ほか。5百人。午後は分科会▽分権時代の条例制定▽介護保険と地域社会▽自治体の政策構想力。無料。申し込みは☎(200)3

708か、はがきに住所、氏名、☎を記し、〒21018577(住所不要)、市総合企画局分権推進担当。〔①ワクワクワークーフズリナ化石のスンプ標本をつくらう②自然観察会〜里山の動物のくらしを探ろう③特別展〜中学校理科優秀作品展◆市青少年科学館ほか〕①は1月17日(日)13時。

学習・文化情報

聞きたい音楽がある

先着15人②は2月21日(日)10時、JRR中央線高尾駅集合。講師は平岡環境科学研究所の山本裕治さん。先着20人

③は2月4日(日)～3月2日(火)の9時半。いずれも無料。申し込みは①受け付け中②は1月14日(日)9時から☎(9222) 47331の同館。

①映画劇場②ダンスパーティー③社交ダンス講習会

◆川崎市民プラザ①は2月13日(土)14時と18時「エアフォース・ワン」。無料。当日先着各500人②は3月13日(土)18時半。演奏は横浜J&Bオーケストラ。前売り千800円。先着1500人③は3月13日(土)13時。タンゴとチャチャチャ。受講料2千500円。初・中級者男女各25人。先着順。申し込みは①当日直接②③は2月26

日(金)からプラザフロント。問い合わせは☎(8888) 31311の同所。

ステージ

「グレゴリオ聖歌の調べ」市民ミュージアム 2月6日(土)17時半開演。出演はカペラ・グレゴリアーナ。千円。チケットは1月15日

日(金)からプラザフロント。問い合わせは☎(8888) 31311の同所。

「トーク・建物とくらし」日本民家園 2月11日(祝)13時半、原家集合。合掌造り屋根の見どころ。無料(要入園料)。当日直接。問い合わせは☎(9222) 21811の同園。

「かわさき婦人まつり①展示・発表②健康づくり③新しい時代の生き方講座◆中小企業・婦人会館」①は1月30日(土)9時、20の女性グループ活動の展示、発表、即売②は同9時半。ストレッチの実演、体脂肪、骨密度の測定と相談③は同13時半「性犯罪の現場から」と題し、県警捜査一課の板谷利加子警部補が講演。先着百人。いずれも無料。申し

込みは③のみ1月16日(土)8時半から☎(4222) 25255の同館。

「市立看護短期大学 聴講生・科目等履修生募集」出願期間は1月25日(月)～29日(金)。入学選考料9千200円。書類審査し3月5日(金)に結果発表。入学料は川崎在住者1万3千500円、他は2万7千円。授業料は別。詳細は☎(587) 3502の同大教務課。

「多摩区リサイクルフェア98①募集」我が家のリサイクル提案②未使用バスタオル・タオルの提供募集」①は原稿用紙1枚に提案を書き応募②は福祉施設に贈る。申し込みは①2月10日(水)までに郵送②2月15日(月)～3月5日(金)、郵送が持参。〒214-18570(住所

☎(935) 31111内線

不要)、多摩区役所区政推進課。☎(935) 3111内線31311。

「新春運だめしくじ公開抽せん会◆教育文化会館」1月27日(水)13時半開始。14時50分「新沼謙治ショー」。2千人。整理券は1月18日(月)から各区役所相談・情報サービスセンター、支所、出張所で配布▽同くじは1月20日(水)～26日(火)に発売。問い合わせ☎(200) 2182の市財務局資金課。

「市民シンポジウム◆高津市民館」2月6日(土)14時。青少年の問題について考える。分科会のテーマは、青少年の自立と自主的活動への支援▽青少年が心豊かに育つための環境づくりなど。無料。当日直接。2百人。詳しくは☎(200) 2248市民局青少年企画担当。

か。無料。当日直接。☎(854) 65801。

「かながわ人形劇フェスティバル◆地球市民かながわプラザ」3月7日(日)10時と13時。無料。2500人。申し込みは2月2日(火)から☎045(241) 313

「洗濯学園アカデミー」室内オーケストラ新春特別コンサート②同専攻科オペラ試演会◆同園前田ホール他」①は1月11日(月)19時開演。会場はサントリーホー

ル(赤坂駅下車)。ヴァイオリンと指揮は海野義雄。ヴィジュアルディ「四季」春」他。S席4千円、学生2千円②は1月13日(水)13時開演。会場は同園前田ホール(溝ノ口駅下車)。ブッチーニ「蝶々夫人」。指揮は小泉

ひろし。無料。問い合わせは☎(856) 2981。

「サカモト・ミュージック・スクール新春発表会◆川崎市民プラザ」1月10日(日)15日(祝)11時、16日(土)30日(日)14時半、31日(日)11時。同生徒の器楽、声楽、合唱は

学習・文化情報

みたい絵がある

1の県立青少年センター。本郷台駅下車。

「糀金曜寄席◆ギャラリー」
1糀 1月29日(金)19時開演。
林家錦平の「芝浜」ほか。
前売り券千3百円。☎(812)6090。

①紫村千恵子(写真真女)と四つ星の響き、珠玉のタンゴとシャンソンの数々②庄村清志(写真男)ギターリサイタル◆糀ホール①は1月30日(土)14時開演。共



演は、ロス・マエストロ・トス・デル・タンゴ②は2月19日(金)19時開演。マラッツ「スペインセレナーデ」。
全自由席①2千円②4千円。
☎(812)6090。



スポーツ

①親子スポーツ教室②パドルテニス初級③シルバースポーツ教室◆市体育館

①は1月19日～3月23日の毎週火曜A・9時半▽B・10時45分、各全10回。3・4歳児とその保護者、各40組。各3千円②は2月20日～3月27日の毎週土曜10時、全5回。15歳以上、40人。2千円③は1月20日～3月24日の毎週水曜A・13時半▽B・15時、各全10回。55歳以上、各40人。1回120円。申し込みは①1月12日(火)10時半②1月30日(土)10時③1月13日(水)14時に同館で抽選。③のみはがき応募可、1月12日(火)までに住所、氏名、年齢、☎、コースを記して210-0001川崎区富士見1の1の4、同館。☎(200)3255。

①バスケットボール初級②少年スポーツ教室(トランポリン・体操)◆幸スポーツセンター①は1月20日～3月24日の毎週水曜18時、全10回。15歳以上、

40人。4千円②は2月18日～3月25日の毎週木曜16時半、全6回。小学1～4年生、30人。1回60円。申し込みは①1月13日(水)15時②2月4日(木)16時に同館で抽選。☎(555)3011。

①太極拳入門②親子体カづくり体操◆高津スポーツセンター①は1月19日～3月23日の毎週火曜10時、全10回。15歳以上、40人。4千円②は1月20日～3月24日の毎週水曜10時、全10回。平成6・7年生まれの子供とその保護者、30組。3千円。申し込みは①1月12日(火)10時②1月13日(水)10時に同館で抽選。☎(813)6531。

ギャラリー



「市民ミュージアム」1月15日(祝)～3月14日(日)「来日450周年 大ザビエル展」その生涯と南蛮文化の遺宝」。絵画、彫刻、自筆書簡、南蛮屏風他マ1月31日(日)2月14日(日)3月7日(日)14時、ギャラリートーク。学芸員が解説。一般千円、

小～大学生5百円。☎(754)4500。
「ギャラリー幸」1月8日(金)～20日(水)「祝新春・ミニ作品展」。はがきサイズの小品▽2月5日(金)～10日(水)「星川清彦・水彩画展」風景画、花▽2月12日(金)～24日(水)「花の展」。写真、油彩。☎(555)8181。川崎駅西口下車。
「画廊ランプ屋」1月20日(水)～31日(日)、年の初めの絵画版画展。日本画や木版の屏風ほか。☎(945)4416。稲田堤駅下車。
「会館とどろき」1月9日(土)～24日(日)「青芽会写真展」▽1月27日(水)～2月9日(火)、小学校図工研究会の「中原区造形展」▽2月10日(水)～3月2日(火)、中原区近隣の「小中学校書道展」。
☎(733)3333。
「アートガーデンかわさき」1月21日(木)～2月7日(日)「及川正通」原画展。週刊情報誌「びあ」の表紙に描いた人物画160点。大人3百円、高～大学生2百円、中学生以下無料。問い合わせ☎(222)88

21の市文化財団。

「アートホール新町」1月16日(土)～2月15日(日)、佐久間五朗・年賀蒐集展、小さな花の木会・絵馬展▽2月16日(火)～28日(日)、荻野高秋の写真、尾崎幸子、井上泰助の絵画。☎(344)6444。川崎新町駅下車。

「スナック喫茶琴」1月30日(土)まで、鹿島田グループの絵手紙▽2月1日(月)～13日(土)、横山栄一のイラスト画▽2月15日(月)～27日(土)、高橋伝海の花の写真。☎(544)0507。鹿島田駅下車。

ミニニュース

虹ヶ丘に初オープン
コミュニティルーム

昨年12月、麻生区虹ヶ丘小の空き教室を改装した「虹ヶ丘コミュニティルーム」がオープンした。写真△がオープンした。写真。市民館から遠い虹ヶ丘周辺住民が切望していた「集いの場」。市内初の試み。3つの学習室と調理室、視聴覚室からなり、ミニテイサービスや配食、合唱、体操

などのグループが活動する。近く、本やピアノも入る。

3年前に請願し、その後も粘り強く市教委と話し合い実現した。運営・管理は、近くの住民がシフトを組んで対応する。

「ミニユニティルーム運営部会長の角山雅計さんは「お年寄りや車いすの方にも来ていただけるよう通路、トイレ、冷暖房設備も整えました」と話す。

岡畑文字さんは「今後の空き教室利用のお手本になるようにという気持ちです」と笑顔で話している。

徳峯宏子同校校長は「みなさんの熱心さに動かされた感じですね」と振り返る。同ルームは☎(987)2881(I)。



個性ある豊かさへ

編集後記

恒例のスタッフ一同の新春のごあいさつもどき▼今年(一九九九)は卯年▼十二支と動物名は

元来、無関係で数字に代わる順序の呼称▼それが、なぜか運勢や占いに利用されるように▼ウサギにちなみ「経済は一足飛びによくなる」はウソ▼動物にそんな力があるのならもっと自然を大切に▼今号「いまを話す」の対談は、本当の豊かな心・暮らしとはなにかを示唆しています(田中)。

吹きガラスを昨夏から中原区で始めましたが、私の技術では一回一作品▼不格好な自作に愛着を感じるのは「授業料からすると高価なグラス」だから▼熟練者の美しく使いやすい作品は、修練のエッセンスが入っているのです▼さて「グループ紹介」取材の際、会員が「仲間がいるから来る、楽しい」▼自分の体験から

もグループには、みんなを

元気にする「なにか」がある(井上)。「今年はどうな出会いが」と今からときめいています▼「無事がなにより」は、昨年十二月号「いまを話す」のゲストで、

哲学者の内山節さんの言葉▼自然、人間、事物の根源的あり方を考察する哲学者の言葉は意外に平明▼聞き手の問いに、分かりやすく応えてくださいました▼「目から鱗」のインタビュー

「初体験」改めて「人から学ぶ」を実感しました(菅原)。内山さんの話を聞いて、小学三年まで暮らしていた小さな山の上の二十軒の正月を思い出しました▼

凧あげをするには、まず、竹を皮と肉にはく骨づくりから▼手を傷だらけにして完成した凧は急落下▼その破れた凧を障子紙で作り、足の部分を新聞紙でつぎま

す▼でも「飛んで」の願いは報われません▼最近、「遊びの中で、自然について学んでいたんだ」と気づきました▼これからは田舎で暮らしていたことに、誇りがもてそうです(山本)。

みやまえ口ビーコンサート5周年記念 ふれあいコンサート

女心を舞う佳卓 感動の響優飛 和の競演舞と響

1月23日(土) 午後2時開演
宮前市民館大ホール

(田園都市線宮前平駅下車)

入場無料

出演 大江戸助六太鼓/阪東勝次(三味線)/佳卓(新舞踊)
優飛(和太鼓)/益田賢治(シンセサイザー) 他
演目 越後獅子/鹿の遠音/こんな男にほれてみる 他

●問い合わせは☎(856)3111の宮前区役所区政推進課



女心を舞う「佳卓」

発行

(財)川崎市生涯学習振興事業団
電話044(952)5000代

FAX 044(952)1350

〒215-0004 川崎市麻生区万福寺一の二の二、新百合21ビル
編集人・田中 園